
DRAGON BALL RETURN

水銀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D R A G O N B A L L R E T U R N

【Nコード】

N 5 3 4 4 P

【作者名】

水銀

【あらすじ】

1章は悟空はシェンロンともしもツフル人とサイヤ人が仲良くできたら、その考えを現実にするため彼は2つの星の人間にとっての悪となり、セルゲームを真似て戦う。

1話

大自然の世界、そこに我らがヒーローの悟空とシェンロンはいた。

悟空「なあシェンロン

本当にサイヤ人とツフル人は

仲良くできなかったのか？」

シェンロン「わからぬ、だが悟空は

なぜそう思うのだ？」

悟空「オラあ思っただけだよ、

俺の仲間って全員本気の殺し合いをして

最後は仲間になってるじゃねえか。」

シェンロン「確かに驚く程な。」

悟空「もしかしたらオラ、

兄ちゃんやフリーザー、

セルやベビーとも仲良くできた

かもしれねえとおもったんだ。

オラの最後の頼みでさせてもらえねえか？」

シェンロン「時間を戻すなど

始めての事だ、

だが面白い。

そして最後など言うのではない、

悟空、お前は生まれ直せ

お前は多くの人を救っただけでなく

私の命も救ってくれた
私も恩返しをしたいのだ」

悟空「オラが生まれなおすだつて!!?」
お、オラあなるべくこの見た目がいいんだ。」

シエンロン「お前が転生するのは
お前がこれからサイヤ人とツフル人との
仲を直してやるのだ。」

悟空「だけどオラ、
口下手だからどうやってやるんだ?」

シエンロン「それならばセルゲームを
参考にしてはどうであろうか?
悟空、お前の姿を変えてやろう」

シエンロンが前足というか手を悟空の目の前にやる。
すると悟空の姿は人型のヘドロになった

目は無く、恐怖をおもわせる。

悟空「うつひょー
どう見ても悪役には
ぴったりじゃねーか。」

と自分の足を上げてみる悟空。

シエンロン「ガーバツジとでも

名乗ったらどうだ？」

シェンロンが言う

名前はgarbage

つまりは生ゴミである。

悟空「おゝゝよさそーだな。」

ベジータ王とツフル王が睨み合っ、

まだ戦いは始まってはいないが、既に戦おうとしているのだった。

そこに悟空が瞬間移動で現れた

ベジータ王「な、なんだ貴様は!!」

ツフル王「化け物だと!!」

悟空「(ツフル星人って

地球人とたいして変わらないんだな。

おっと、口調はスーパーサイヤ人のがいいか。)

オレの名前はガーバッジ、

ツフル星人とサイヤ人だな?

見事にオレの作戦に引っかけたようだな。

オレはお前達2つの星の人間が

お互いに憎み合う事で強くなる怪物だ。

サイヤ人がこの星に不時着した理由も

このオレだ、サイヤ人は気性が荒く、

ツフル人と憎み合うのは予定内だった。

そしてサイヤ人達がツフル人を恨み、

戦争を始めさせようとさせたのもオレのおかげだ。

だからお互いに恨み、オレがその力を吸収する。

上手くいったよ、礼を言う。」

ベジータ王「な、何だと!!!!」

ツフル王「貴様のせいで我々は

戦う運命にされていたのか!!!!!!」

ガーバッジ「そうだ、
オレはこれから
3週間だけお前達2つの
星人に時間をやろう、
だが指定した星以外に。
せいぜいこのオレを倒すため
がんばるのだな。」

悟空は上手く2人を丸め込み、
ある星に移転した。

悟空「しっかしエンロン、
次は星をまるまる天下一舞踏会の
会場みたいにしなきゃな。

それと次はどうやって
みんなを強くするかが問題だな。」

姿が元に戻った悟空がエンロンに話しかける。

エンロン「ならばベジータの息子、
トランクスが来たように

悟空、お前は父を助けに来たとでも
言えば良いだろう。

確かサイヤ人としての名前は
えーっとなんだったか？」

悟空「カカロットだ、
フリーザーがサイヤ人独特の名前だって
言ってたから疑われないだろ。」

エンロン「おっと、尻尾も無ければな。」

悟空にぴよろつと尻尾が現れた。

エンロン「神の神殿の
ような場所を作ってやるぞ。」

悟空「おゝ、ありがとなエンロン。」

天下第一舞踏会まであと3週間

2話

おっすオラ悟空。

今、シェンロンに
頼んでトランク스가乗ってきた
タイムマシンに乗って
惑星ベジフルに来てる。

何か惑星の名前が
フュージョンしたな。

父ちゃん「な、何だこれは！！
コレもガーバッジとか言う
奴の仕業なのか！！？
ベジータ気を付けろ！！」

ベジータ王「そんな事は
分かっている！！」

ありゃあ、
相当警戒されてんなあ。
他にもいっぱい
サイヤ人がいるな。

オラ「よつと。」

父ちゃん、ベジータ王「な！！？
バーダックだと！！？俺だと！！？」

オラ「違う違う、オラは
カカロットだ、

未来から来たアンタの息子だ。」

2人「な、なんだとお！！？」

父ちゃん「お、俺に

2人目の子供だと！！？」

オラ「へへっ、

実は未来で偶然この世界を聞いて
手伝いに来たんだ。」

ベジータ王「な、タイムマシンだと！！？
どこの星がそんな物を作ったのだ！！」

オラ「それは言えねえな、
あんまり過去を歪めたら
この時代で予想外の事が
追加されちゃうんだ。

一応一つだけは教えて
やろうか、

ベジータの結婚相手が
このタイムマシンを
作ってくれたんだ。」

ベジータ王「な、ワシの妻だと！！？」

オラ「いや、あんたじゃなくて

アンタの息子のだ。

でもこれは秘密だぞ?」

ベジータ王「ど、どっちだ?」

父ちゃん「ベジータって

言ってたから長男だろ?

それよりカカロット、

未来で俺はどうなってるんだ?」

オラ「オラが物心付いた時は
自分がサイヤ人なんて
知らなかったぞ?

それにオラがサイヤ人だって
教えてもらった時は

既にこの惑星は

破壊された未来だったし、
それにさっき偶然この事を
知ったって言っただろ?

オラが聞いたこの惑星は
ツフル星人とサイヤ人が
意見が食い違っちゃって
戦い合ってサイヤ人がツフルを
全員殺しちゃったんだ。

オラが孫を持った時代に
サイヤ人を絶滅させる為に
ツフル人たちの恨みが籠った
悪い奴がサイヤ人を
根絶やしにしに来て
大変だったんだぞ?」

ベジータ王「ふん、
他の星の人間など
どうでも良いだろう？」

まだあんまり
ツフルの王さまとも
仲良くは無いなだな。

オラ「だけど他の星
の奴らと仲良くできなきゃ
もっとオラはつまらねえと思うぞ」

父ちゃん「ベジータ！！
とにかく今は
ガーバッジとか言う奴を
倒すのを考えろ！！」

ベジータ王「チィ、しょうがない。
ならばカカロットとか言う奴、
ワシに従え！！」

オラ「断る！！
オラが手を貸せるのは
修行だけだ、
オラ自身が戦うのは
禁止になつてんだ。」

ベジータ王「なんだと！！
チィ、偉そうに言いやがって！！

・・・バーダック!!!
スカウターでコイツの強さ
を見る!!!」

父ちゃん「ふん、
・・・戦闘力たったの5だと!!!?
下級戦士が!!!」

ベジータ王「それほどの
戦闘力しかない貴様が
この王に齒向かうな!!!」

やっべ、父ちゃんたちスカウターに
頼ってやがんのか・・・
スーパーサイヤ人になるのは・・・
やめよ、オラが少し力上げればいつか。

オラ「父ちゃんたち
スカウターに頼りすぎだぞ?
それにコレでどうだ!!!」

オラはたぶん3万ほど上げてみた。
周りのサイヤ人のスカウターも
全部が壊れてっぞ

父ちゃん「な、なんだと!!!?
戦闘力を1万を越してるだと!!!」

ありゃ?戦闘力が
まだ一万しか計れないのか。

ベジータ王「ば、ばかな!!?」
な、なぜそんな事が!!」

オラ「スカウターなんて
付けなくても

通信とか相手の強さを
計るのなんて

オラの時代じゃ

普通にみんな使ってたぞ。」

父ちゃん「な、なんだと!!」

オラ「父ちゃんたち、

オラが修行つけてやる!!」

こうして修行が始まった

戦いに集まったのは父ちゃんと、
どうやらオラとラディッツの母ちゃんらしい
セリパっていうオラにとって始めての
純粋なサイヤ人の女の人だ。

セリパが母親設定は使用です。

後はベジータ王、トーマ、パンブーキン、トテッポ、
で、ビツクリなのがパラガスだった。

一方ツフル星人も
サイヤ人はクライだって言ってたが、
何かオラを気に入ったらしくって
数人が参加してくれた。

ツフル王、ジーク、スカッド、ブード、ローザックが来た。
Drライチーは5人の為に
バトルスーツを新しく考えてるらしい。
スカウターの事は要らないとオラは言っていた。

オラ「みんな、まずはコレを付けて

この星を一周だ！！」

全員『『無理だ！！』『』』

ありゃ？全員倒れてらあ

オラ「コレを何とかしないとな」

数時間で何とか歩く事は出来るようになった。

オラ「よし、次は

相手の気を探ったり、

相手の気が誰の物か、

自分の気を隠したりとか。

そんな事をやるぞ？

気つてのは相手の

戦闘力みたいなもんだな。」

ツフル王「な！？

そんな事ができるのか！？

相手の戦闘力だけじゃなく

相手が誰だかも

わかるだと！！？」

オラ「ああ、オラはこれで何度も

これで仲間が弱ったときも

すぐに気づいて助けにいったぞ。」

こうして、オラはガンバツテ

やつらに修行をするのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5344p/>

DRAGON BALL RETURN

2011年1月2日21時09分発行